

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年2月12日
【四半期会計期間】	第91期第3四半期（自 2019年10月1日 至 2019年12月31日）
【会社名】	高田機工株式会社
【英訳名】	TAKADAKIKO (Steel Construction) CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 高橋 裕
【本店の所在の場所】	大阪市浪速区難波中2丁目10番70号
【電話番号】	(06)6649-5100
【事務連絡者氏名】	取締役執行役員 管理本部長代理兼経理部長 西尾 和彦
【最寄りの連絡場所】	大阪市浪速区難波中2丁目10番70号
【電話番号】	(06)6649-5100
【事務連絡者氏名】	取締役執行役員 管理本部長代理兼経理部長 西尾 和彦
【縦覧に供する場所】	高田機工株式会社東京本社 (東京都中央区日本橋大伝馬町3番2号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

(注) 第1四半期会計期間より、日付の表示を和暦から西暦に変更しております。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第90期 第3四半期累計期間	第91期 第3四半期累計期間	第90期
会計期間	自2018年4月1日 至2018年12月31日	自2019年4月1日 至2019年12月31日	自2018年4月1日 至2019年3月31日
完成工事高 (千円)	13,980,793	13,203,432	18,502,629
経常利益 (千円)	810,389	733,298	1,052,554
四半期(当期)純利益 (千円)	523,746	656,063	874,887
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-	-
資本金 (千円)	5,178,712	5,178,712	5,178,712
発行済株式総数 (千株)	2,237	2,237	2,237
純資産額 (千円)	17,477,777	18,287,228	18,030,004
総資産額 (千円)	24,433,726	26,647,444	25,928,340
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	237.72	297.80	397.10
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
1株当たり配当額 (円)	40.0	40.0	90.0
自己資本比率 (%)	71.5	68.6	69.5

回次	第90期 第3四半期会計期間	第91期 第3四半期会計期間
会計期間	自2018年10月1日 至2018年12月31日	自2019年10月1日 至2019年12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	84.56	107.15

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度にかかる主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 完成工事高には消費税等は含まれておりません。
3. 持分法を適用した場合の投資利益は、関連会社がないため記載しておりません。
4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益は、潜在株式がないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、製造業では一部弱めの動きがみられるものの、雇用・所得環境の改善から緩やかな回復基調で推移いたしました。

当業界におきましては、橋梁事業では当第3四半期累計期間の発注は、大規模保全・特定更新関連は堅調なもの、新設鋼橋は前年同四半期比で大きく減少いたしました。高速道路4車線化整備計画等で、翌事業年度以降の発注は回復が見込まれるものの、当事業年度は発注の端境期に当たり、前事業年度を大きく下回る発注にとどまると予想されます。

鉄構事業では、首都圏の大型再開発事業が東京五輪終了後も鉄骨需要の中心となると予想されます。また関西圏においても、2025年大阪万博に絡んだ動きが見込まれており、一部の案件では当事業年度内の出件が期待されています。2020年は東京五輪開催で一時的に工事中断が予想されますが、五輪後の回復に対する期待感は非常に高まっております。

このような状況のもとで当社は、対象案件を絞り込み、限られた経営資源を最大限に活用する営業活動を継続し、受注高の確保に努めました。結果として、橋梁事業では新設鋼橋の発注案件が非常に少ない中で、地方自治体の案件を中心に良好な結果を残すことが出来ました。鉄構事業では目標案件が受注に至らず、当第3四半期累計期間の受注高は前年同四半期と同様、低調な結果となりました。

損益面につきましては、第2四半期に引き続き、鉄構事業の低調な受注に起因する完成工事高の減少を橋梁事業の増加で埋めきれず、完成工事高は前年同四半期実績に届きませんでした。原価の低減から完成工事総利益は改善しましたが、販売費及び一般管理費が増加したことで営業利益も前年同四半期をわずかに下回りました。しかしながら、当第3四半期累計期間においては、災害による損失は無く、一方で投資有価証券売却益を計上したことから四半期純利益は前年同四半期を上回る結果となりました。

当第3四半期累計期間の経営成績は、売上高13,203,432千円（前年同四半期比5.6%減）、営業利益639,915千円（前年同四半期比8.4%減）、経常利益733,298千円（前年同四半期比9.5%減）、四半期純利益656,063千円（前年同四半期比25.3%増）であります。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

橋梁事業

橋梁事業における当第3四半期累計期間の売上高は11,102,634千円（前年同四半期比3.2%増）、セグメント利益は666,880千円（前年同四半期比21.7%増）となりました。また、当第3四半期累計期間の受注高は10,954,040千円（前年同四半期比72.6%増）となり、当第3四半期会計期間末の受注残高は16,636,928千円（前年同四半期比6.2%減）となりました。

鉄構事業

鉄構事業における当第3四半期累計期間の売上高は2,100,797千円（前年同四半期比34.8%減）、セグメント損失は26,964千円（前年同四半期はセグメント利益150,683千円）となりました。また、当第3四半期累計期間の受注高は645,370千円（前年同四半期比5.7%増）となり、当第3四半期会計期間末の受注残高は608,702千円（前年同四半期比58.1%減）となりました。

当第3四半期会計期間末の総資産は、26,647,444千円で前事業年度末比719,103千円の増加となりました。その主な要因は受取手形・完成工事未収入金の増加と未成工事支出金及び投資有価証券の減少によるものであります。負債は、前事業年度末比461,880千円増加し、8,360,216千円となりました。主な要因は短期借入金の増加及び未成工事受入金の減少によるものであります。純資産はその他有価証券評価差額金の減少がありましたが、利益剰余金の増加により前事業年度末比257,223千円増加し、18,287,228千円となりました。

(2) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期累計期間において、当社が定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期累計期間において、当社の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期累計期間における研究開発活動の金額は、20,906千円であります。

なお、当第3四半期累計期間において、当社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 主要な設備

当第3四半期累計期間において、以下の設備の新設を決定しております。

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達方法	着手及び完了予定年月	
			総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了
和歌山工場 (和歌山県 海南市下津町)	橋梁事業 鉄構事業	塗装工場の新設 構内ヤードの整備	1,700	-	自己資金及び 借入金	2019年11月	2022年10月

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	6,560,000
計	6,560,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (2019年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2020年2月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	2,237,586	2,237,586	東京証券取引所 市場第一部	権利内容に何ら限定 のない当社における 標準となる株式 単元株式数100株
計	2,237,586	2,237,586	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2019年10月1日～ 2019年12月31日	-	2,237,586	-	5,178,712	-	4,608,706

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2019年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 34,600	-	単元株式数100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,192,600	21,926	同上
単元未満株式	普通株式 10,386	-	-
発行済株式総数	2,237,586	-	-
総株主の議決権	-	21,926	-

【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
高田機工株式会社	大阪市浪速区難波中2丁目10番70号	34,600	-	34,600	1.55
計	-	34,600	-	34,600	1.55

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に準拠して作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期会計期間（2019年10月1日から2019年12月31日まで）及び第3四半期累計期間（2019年4月1日から2019年12月31日まで）に係る四半期財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

3．四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1【四半期財務諸表】

(1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	3,558,835	3,312,784
受取手形・完成工事未収入金	9,675,309	11,786,964
未成工事支出金	719,335	328,691
材料貯蔵品	18,683	19,959
その他	284,013	60,753
貸倒引当金	30,590	36,090
流動資産合計	14,225,586	15,473,062
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物	4,319,250	4,326,605
減価償却累計額	3,487,733	3,532,784
建物・構築物(純額)	831,517	793,821
機械・運搬具	4,373,760	4,392,148
減価償却累計額	3,911,350	3,991,345
機械・運搬具(純額)	462,410	400,802
土地	5,474,016	5,474,016
その他	892,812	903,045
減価償却累計額	795,638	811,185
その他(純額)	97,174	91,860
有形固定資産合計	6,865,117	6,760,500
無形固定資産		
ソフトウェア	9,750	8,593
その他	8,756	8,725
無形固定資産合計	18,507	17,318
投資その他の資産		
投資有価証券	4,109,847	3,731,543
従業員に対する長期貸付金	27,533	24,320
前払年金費用	284,730	283,443
その他	462,562	421,581
貸倒引当金	65,545	64,327
投資その他の資産合計	4,819,128	4,396,561
固定資産合計	11,702,753	11,174,381
資産合計	25,928,340	26,647,444

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金	3,300,386	3,203,337
短期借入金	2,400,000	3,600,000
未払法人税等	169,767	10,324
未成工事受入金	1,038,725	785,361
賞与引当金	185,060	75,104
役員賞与引当金	35,200	-
工事損失引当金	268,298	226,087
その他	226,545	216,551
流動負債合計	7,623,982	8,116,767
固定負債		
繰延税金負債	125,818	103,020
退職給付引当金	127,791	140,428
その他	20,743	-
固定負債合計	274,353	243,448
負債合計	7,898,335	8,360,216
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,178,712	5,178,712
資本剰余金	4,608,706	4,608,706
利益剰余金	7,470,276	7,928,067
自己株式	144,130	144,688
株主資本合計	17,113,563	17,570,797
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	916,441	716,430
評価・換算差額等合計	916,441	716,430
純資産合計	18,030,004	18,287,228
負債純資産合計	25,928,340	26,647,444

(2)【四半期損益計算書】
【第3四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
完成工事高	13,980,793	13,203,432
完成工事原価	12,415,133	11,612,300
完成工事総利益	1,565,659	1,591,131
販売費及び一般管理費	866,929	951,215
営業利益	698,729	639,915
営業外収益		
受取利息	5,394	6,106
受取配当金	97,863	99,074
その他	50,694	22,276
営業外収益合計	153,951	127,458
営業外費用		
支払利息	8,084	10,114
支払保証料	12,504	7,482
その他	21,703	16,477
営業外費用合計	42,291	34,075
経常利益	810,389	733,298
特別利益		
投資有価証券売却益	-	93,354
特別利益合計	-	93,354
特別損失		
災害による損失	146,279	-
特別損失合計	146,279	-
税引前四半期純利益	664,110	826,653
法人税、住民税及び事業税	94,767	101,041
法人税等調整額	45,596	69,547
法人税等合計	140,363	170,589
四半期純利益	523,746	656,063

【注記事項】

(四半期貸借対照表関係)

四半期会計期間末日満期手形

四半期会計期間末日満期手形の会計処理については、当四半期会計期間末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。当四半期会計期間末日満期手形の金額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2019年12月31日)
支払手形	161,163千円	13,318千円

(四半期損益計算書関係)

災害による損失

前第3四半期累計期間(自2018年4月1日 至2018年12月31日)

2018年の台風20号及び21号により被災した当社和歌山工場の建物等の現状復旧費用であります。

なお、被災した資産には保険を付しておりますが、保険金額が確定していないため、計上しておりません。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
減価償却費	201,486千円	183,861千円

(株主資本等関係)

前第3四半期累計期間(自2018年4月1日 至2018年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月27日 定時株主総会	普通株式	88,129	40.0	2018年3月31日	2018年6月28日	利益剰余金
2018年11月9日 取締役会	普通株式	88,126	40.0	2018年9月30日	2018年12月3日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間末後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期累計期間(自2019年4月1日 至2019年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月26日 定時株主総会	普通株式	110,154	50.0	2019年3月31日	2019年6月27日	利益剰余金
2019年11月8日 取締役会	普通株式	88,117	40.0	2019年9月30日	2019年12月2日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間末後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期累計期間(自2018年4月1日至2018年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	橋梁事業	鉄構事業	合計
売上高			
外部顧客への売上高	10,757,452	3,223,340	13,980,793
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-
計	10,757,452	3,223,340	13,980,793
セグメント利益	548,046	150,683	698,729

(注) セグメント利益の合計額は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

当第3四半期累計期間(自2019年4月1日至2019年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	橋梁事業	鉄構事業	合計
売上高			
外部顧客への売上高	11,102,634	2,100,797	13,203,432
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-
計	11,102,634	2,100,797	13,203,432
セグメント利益又は損失()	666,880	26,964	639,915

(注) セグメント利益又は損失の合計額は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
1株当たり四半期純利益(円)	237.72	297.80
(算定上の基礎)		
四半期純利益(千円)	523,746	656,063
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益(千円)	523,746	656,063
普通株式の期中平均株式数(株)	2,203,193	2,203,002

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

2019年11月8日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

- (イ) 配当金の総額.....88,117千円
- (ロ) 1株当たりの金額.....40円00銭
- (ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....2019年12月2日
- (注) 2019年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行いました。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年2月12日

高田機工株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 川井 一男 印
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 北口 信吾 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている高田機工株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの第91期事業年度の第3四半期会計期間（2019年10月1日から2019年12月31日まで）及び第3四半期累計期間（2019年4月1日から2019年12月31日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、高田機工株式会社の2019年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. X B R Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。